

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員 山口虎太郎

NO.1

実施月日	令和元年8月26日(月)			
実施時間	14時00分～17時40分			
調査先	ロワジュールホテル那覇及び航空自衛隊那覇基地			
調査所在	那覇市3-2-1(ロワジュールホテル那覇)・那覇市字当間301(航空自衛隊那覇基地)			
調査の目的	第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会及び航空自衛隊那覇基地現地研修視察			
調査先担当者	九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会 会長 又吉清義(沖縄県議会)			
内容・結果等	○ 第14回九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会総会			
	1. 役員選任について			
	(1)九州・沖縄防衛議員連盟連絡協議会規約により、会長は総会開催地の県議会会員団体から選任、会長(沖縄県議会)又吉清義氏。副会長山川典二氏、幹事長花城大祐氏、幹事山川典二氏が選任される。			
	2 議案審議			
	(1)第1号議案 平成30年度事業報告(案)及び決算(案)については、会計監査報告により原案どおり可決された。			
	(2)第2号議案 令和元年度事業計画(案)及び決算(案)について原案どおり可決された。			
	大会決議(案)と時期開催県(大分県)についても採択され、大分県議 濱田洋氏より時期開催県として挨拶され総会終了し、防衛講話演題「南西諸島を取り巻く安全保障環境」を、航空自衛隊南西航空方面隊司令官空将 鈴木康彦氏より講話があった。那覇基地を中心に円を描くと1500Km圏内に東京、香港、マニラが入る西の防衛の要と話された。			
	○まとめと感想、 総会は原案どおり可決した。国の平和と安全、経済の発展、安定に防衛の要自衛隊は不可欠であると理解する。近年の近隣国際政治情勢を見るにつけ、平和と安全を冷静に判断する外交の時代と感じた。講話の具体的内容である年間400回を超えるスクランブル発進は脅威が増していると感じた。佐賀県も基地を抱える市町があり、佐賀空港も今、共同運用の時期を示されている。嬉野市も基地を抱えている、国民として平和と安全保障は大事と理解する。			
	上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
		旅費及び宿泊費		51,370
長崎～那覇往復航空券 沖縄2泊分含む				
合計			51,370	

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員 山口虎太郎

NO.2

実施月日	令和元年8月27日(火)		
実施時間	9時45分～11時40分		
調査先	宜野湾市役所		
調査所在	宜野湾市野嵩一丁目1番1号		
調査の目的	普天間基地の概要について		
調査先担当者	宜野湾市議会 東川上芳光事務局長 基地対策部基地渉外課 課長吉村純 係長崎原邦子		
内容・結果等	<p>1.宜野湾市長 松川正則氏 宜野湾市議会議長 上地安之氏表敬訪問し普天間基地の状況視察</p> <p>(1)米軍普天間基地の状況説明が松川市長より説明があり、まちなど真ん中に位置する普天間飛行場は、戦後70年以上の長期間、航空機事故の危険性、騒音被害等、市民生活環境に大きな負担を強いていることや、効率的なまちづくりを進めるうえで阻害要因となっている。普天間飛行場が、世界一危険であり、一刻も早い返還の必要性が示されるものの、政府と沖縄県は対立を続けH8年5月の日米返還合意の解決に向けた道筋は依然として不透明な状況が続いている。</p> <p>(2)宜野湾市面積(19.8Km²)の内、普天間飛行場がまちな中心に位置し、約4分の1を占める普天間飛行場常駐機はオスプレイ24機他計58機が昼夜訓練飛行を行なう、在日米軍の拠点。</p> <p>○まとめと感想 沖縄県は戦後、返還復帰まで米軍の軍事拠点であり現在も日米安全保障条約の重要な位置づけは変わらず、市街地の中心に飛行場基地がある、市民は墜落事故の危険性と騒音被害の現状を見聞すると基地問題は国境が無くならない限り続く、平和と安全を確保するには、沖縄の防衛基地負担を真剣に考え、佐賀空港への自衛隊オスプレイの共同運用は理解する。</p>		
上記活動に要した経費	経費の内容	支払先	金額(円)
	NO1に記載		
	合計		0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること

(様式3-2) 調査研究活動記録票(先進地視察又は現地調査に要する経費)

嬉野市議会議員 山口虎太郎

NO.3

実施月日	令和元年8月27日(火)		
実施時間	14時00分～16時00分		
調査先	名護市 辺野古交流プラザ及びキャンプシュワブ(辺野古埋立地)ゲート前		
調査所在	名護市辺野古913番地10		
調査の目的	辺野古埋め立て問題について		
調査先担当者	名護市議会議員 宮城安秀氏		
内容・結果等	1. 普天間飛行場代替施設建設事業の概要説明を名護市市議会議員 宮城安秀氏の説明。		
	(1)移設概要		
	○普天間飛行場の機能・役割のうちの1つ、オスプレイなどの運用機能だけをキャンプシュワブに移転することになる。代替施設は、基地の規模や配備機数など、沖縄の基地負担軽減に資するもの。代替飛行場面積は、普天間飛行場約481haの3分の1、約160haが埋立て面積。配備航空機		
	普天間飛行場58機より15機減。滑走路延長 普天間飛行場2.700m、代替滑走路延長1.800m。		
	代替施設から戦闘機を運用する計画は有してない。○移転先 キャンプシュワブ(辺野古埋立地)		
	○「辺野古埋立地問題」に疑問を呈する宮城市議、地元住民と反対運動派とのトラブルの問題点と、米軍キャンプと地元交流の経緯も説明された。		
	○まとめと感想 辺野古埋立地へはオスプレイの運用機能で普天間基地返還へは遠く感じた、が世界が平和になれば、おのずと基地は不要になる、～基地跡地に未来を～沖縄の人々の心を感じれる現地調査であった。初めての沖縄県、お世話頂いた関係各位に感謝します。		
	上記活動に要した経費	経 費 の 内 容	支 払 先
NO1に記載			
合 計			0

※裏面に領収書、開催通知等を貼付のうえ、実績報告書の支出明細に添付すること。

会議や研修等の資料についても整理保管すること